

■ あとがき

平成 29 年 6 月、河川法改正 20 年多自然川づくり推進委員会（委員長：山岸哲 公益財団法人山階鳥類研究所 名誉所長）から「持続性ある実践的多自然川づくり」が提言されました。

この中で、今後の多自然川づくりの対応方針として、「河川の特徴や性質に応じた多自然川づくりが行われるよう、必要な技術的手法等を検討する」ことが提言されました。本資料は、主として国が管理するような大河川を念頭に置いて、これに対応するものを目指してまとめられたものです。

本資料のとりまとめに際しては、土木研究所水環境研究グループ 萱場祐一グループ長を座長とするワーキンググループの皆様より多大なるご指導を賜りました。ここに深く感謝いたします。

また、いであ株式会社、株式会社建設環境研究所、株式会社建設技術研究所、日本工営株式会社の皆さまにはワーキンググループにおける検討を資料提供等の面から支えていただきました。併せて、この場をお借りして、心より厚く御礼申し上げます。

なお、本資料については、今後も継続して、内容の見直し、新たな知見の整理を踏まえた Q & A の追加等によって充実を図ることが必要と考えています。引き続き、関係の皆様のご支援とご協力を賜ることができれば幸いです。

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 平成 31 年 3 月

●多自然川づくり技術検討会（大河川ワーキンググループ） ※50 音順

（令和 7 年 2 月時点）

- （大石 哲也 元土木研究所 自然共生研究センター 主任研究員
平成 29 年度まで）
- 大槻 順朗 山梨大学大学院
総合研究部附属地域防災・マネジメント研究センター 准教授
- （萱場 祐一 元土木研究所水環境研究グループ グループ長
平成 30 年度まで座長）
- （崎谷 和貴 元土木研究所流域水環境研究グループ流域生態チーム 上席研究員
令和 5 年度まで）
- 田中 孝幸 土木研究所流域水環境研究グループ流域生態チーム 上席研究員
- （鶴田 舞 元土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム 主任研究員
令和 2 年度まで）
- （中村 圭吾 元土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム 上席研究員 兼
自然共生研究センター長 令和元（平成 31）年度から令和 3 年度
まで座長）
- 林 博徳 九州大学大学院 環境社会部門 流域システム工学研究室 准教授
- 林田 寿文 土木研究所 自然共生研究センター 主任研究員
- 原田 守啓 環境社会共生体研究センター 環境変動適応研究領域 教授
- （村岡 敬子 元土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム 総括主任研究員
令和 3 年度まで）
- （座長） 森 照貴 土木研究所 自然共生研究センター センター長
- 吉村 伸一 株式会社吉村伸一流域計画室 代表取締役

●資料提供等協力

いであ株式会社
株式会社建設環境研究所
株式会社建設技術研究所
日本工営株式会社

●多自然川づくり技術検討会（大河川ワーキンググループ）運営補助

公益財団法人 リバーフロント研究所